

夜間学校ニュース

1986年10月24日
西成区萩之茶屋2の
8の9 旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を

現役日雇労働者として、

青カンを余儀なくされている

仲間とどう連帯するか

先週の夜間学校は、釜ヶ崎の集会に合流した。釜ヶ崎の日雇労働者を喰い物にする病院ごとの病院の金もつけを手助けしていた福祉事務所の職員、そして公費を使い込んだ市更相職員——それらの事件報道が、結局、釜の労働者の上には、さらなる福祉の切り

つめとしてハネかえつてくるという危機感。現に、汚転の疑いがかかけられていゝるのではないかと悩んだ職員が自殺したあとの木曜日の医療相談では、相談者に長期にわたつて青カンを結んでいる仲間、医療センターで要入院の診断を受けた仲間が多かつたに

もかかわらず、入院・入室はほとんどなく、自キヨウ館の単泊しで押し切られてしまった。抗議する仲間、市更相の職員は、「市更相はバラ色の福祉をやつてます」と言つたそうだ。

知れぬが、現に、日々路上で死に追いつせられていゝ仲間がいたりとき、病院の姿勢が良くなるまでまつてはいられない。とりあえず、直面する野垂れ死にからのがれ、病院内で闘つことによつて病院をかえていかなければならない。

なるほど、福祉を切り捨てる路上に、釜ヶ崎の労働者の血によつて、真っ赤なバラの花をさかしている、というわけか。

そして、元氣な仲間は、病院内で闘つ仲間を孤立させることなく、支えていくことが必要だと思つた。寒さも今年は早い、青カンを余儀なくされる仲間をどう防衛するか。

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

みんなでつくろう

みんなの会館

三人よれば何とかの知恵

青カンを余儀なくされている仲間を気付かして、毎水曜日の夜に、旅路の里からパトロールに出かけている若者たちの話に、これは、青カンの事件の舞台となつた四天王寺では、坊主たちが、世間体が悪いからと、内々で警察に青カン者を追い散らして欲しいと頼んでいらしい。

また、浪速署管内では、「恥」をよそおつたイガラセがひどく、手荷物をもつていて、袋やカバンの中から物をすててお出させて調べるという。

全ての青カン者に対しておこなっているというこのことになれば、不法たることをまぬがれず、人權問題であると考ええる。

もし、このニュースを讀んだ仲間、水曜日のパトロールに

出合つた話を知って、いたら、おしえてもらいたい。

明治、大正の昔、警察は青カン者を見つけたら、自分が所轄するところから、トナリの所轄の境までつれていき、そこで放したそうだが、今もそれと同様のことがおこなわれている。

追い立てられる仲間の無念や、追いつてが強まれば強まるほど、追い立てられる仲間の中に、ウツパン暗くを何かに求める者も増え、怒りの対象である警察に、またもやイジリまわされる事態がおこると心配される。

そもそも、釜ヶ崎の労働者が青カンを余儀なくされるのは、大阪府、市の行政上の手抜きの手配であり、警察の力によって解決できないことがらである。警察が、近隣の「市民」の迷惑

をたごに、力をふるえばふるうほど問題はこじれて、解決までの時間がよけいにかかることになる。

釜ヶ崎夜間学校も、釜日労や釜ヶ崎キリスト教協会、医療連、差別と闘う連絡会と共に、行政に対し、すみやかに対策をたてるように要求している。府、市への抗議行動にも参加している。

大阪府に対して、これまでも、くつこいほど繰り返してきた、就労対策を要求している。

年々、仕事のある時期とない時期の落差が大きくなっている。四月から七月にかけての仕事の落ち込みが大きいと同時に、九月から年末にかけての求人増大はおおきい。我々は生きて、生活しなければならぬのに、道具箱の道具

のように、必要な時にだけ取り出される労働力としての役割を担っている。

年々繰り返される春から梅雨にかけてのアブレ地獄によって、青カンを余儀なくされる仲間が累積される。

アブレ地獄をなくさない限り、青カン者は無くならない。これほど明白なことに、なぜ大阪府は対策をたてようとならないのか、責任を追究していかねばならない。

大阪府は、青カンによって、あるいは長年の労働によって、体をこなした仲間を、福祉制度から締め出すことによつて、野垂れ死に追いやっていく。汚辱事件を機に、さらなる福祉切捨てを計る大阪府も退及せねばならない。越冬も近い！